

HTLV-I 院内感染予防対策について

桜井 実¹⁾, 神谷 齊²⁾, 伊藤正寛¹⁾

要約: 保健指導班としてHTLV-I 抗体陽性妊婦の分娩、産褥時の管理、院内感染防止対策のためのガイドラインを作製することが目的の一つであった。HTLV-I に関しては特別の対策は不用であるが血液を扱う際の基本的注意事項を怠らないことが重要である。

見出し語: HTLV-I、院内感染防止対策

1. はじめに

HTLV-Iの感染経路としては母乳感染が重要で母児感染の予防対策が確立されつつある。一方、HTLV-Iの感染力についての認識は医療従事者の間では必ずしも十分でなく医療機関内での感染予防対策については統一した見解が出されていない。ここではHTLV-Iの感染様式、感染力についての知見を整理し、HTLV-I 院内感染対策案のガイドラインとしてまとめた。

2. HTLV-Iの感染様式

1) free virus による感染

HTLV-Iは血液中には free virusとしては存在しないと考えられている。HT

LV-Iはfree virusによる感染は起こらない。したがって細胞成分を含まない血漿によつてはHTLV-Iの感染は成立しない。

2) cell to cell infection

HTLV-Iの感染した細胞が含まれた血液、母乳、唾液、精液が移行する場合にはcell to cellによる感染が成立する可能性がある。輸血による感染が起こりうるのは細胞成分が含まれた血液を輸血した場合のみである。

3. HTLV-Iの院内感染防止対策

1) 感染予防対策の原則

HTLV-I、HIV、B型肝炎等の血液を介する感染症の医療機関内での感染予防にあたっては、まず以下のような血液を扱う際の一般的・基本的注意事項の徹底が必要である。

①血液、体液、臓器などはHTLV-I、B型肝炎ウイルス、HIV等の既知のウイルス以外の未知の病原微生物を含んでいる可能性があるので常に慎重に取り扱う。

1) 三重大学医学部小児科学教室 (Dept. of Pediatrics, Mie University School of Medicine)

2) 国立療養所三重病院小児科 (Dept. of Pediatrics, Mie National Hospital)

②器具はできるだけディスポーザブルを使用する。注射針は特定の容器に入れて滅菌後処理する。

③医療従事者の皮膚や粘膜には自覚しない傷がある可能性があり、直接血液にふれることにより病原微生物の侵入門戸となり得るので常に手袋を着用し直接の接触を防ぐ。

④汚染された手袋などで周囲を汚染しないように注意する。

⑤万一血液、体液などが付着した場合は直ちに十分な水で洗い流し、消毒等の処置を行なう。

2) HTLV-I の院内感染予防について

HTLV-I はウイルスが感染したリンパ球が侵入した場合に感染が成立する可能性がある。院内感染は血液を介して起きる可能性があるが、現在は輸血用の血液はHTLV-I の抗体スクリーニングが行なわれているのでまず安全で輸血による感染の可能性は少ない。しかし新生児で母親等から緊急輸血をする場合には抗体をチェックする必要がある。また移植を受ける場合はドナーの抗体検査が実施されているか確認することは必要である。

3) HTLV-I 抗体陽性の患者について

先に述べたようにHTLV-I は血液が他人に付着するだけでは感染が成立することはない。したがってキャリアであっても日常生活の範囲内では他人に感染することはないと考えてよい。したがって入院する場合キャリアを個室に隔離する必要はない。また食器、寝具、衣類なども専用にする必要はなく患者の使用したものを特別に消毒する必要はない。

4) 検体の取扱について

HTLV-I に感染している患者の血液、体液、臓器などを入れる容器は危険な病原微生物が含まれていることを示すラベルをつける。ラベルは病原微生物別に区別する必要はなく、病院内の感染予防対策委員会で決定し徹底する。

5) 滅菌・消毒

HTLV-I は熱(56℃、30分)、アルコール、ヒビテンに対して非常に弱く通常使用される消毒薬で不活化される。消毒薬は通常の消毒薬で十分であるが目的とする対象によって消毒薬を選択する。

6) 針刺事故について

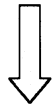
HTLV-I に感染している血液を誤って針刺事故により穿刺した場合、細胞成分が入る可能性は少なく、HTLV-I が感染する可能性はきわめて少ない。またこれまででも針刺事故による感染の報告もされていない。針刺事故が発生した場合は血液を絞り出し流水で十分に洗い流す。念のため事故後にHTLV-I 抗体価を測定する。

7) HTLV-I 抗体陽性者の手術や分娩

以上に述べたようにHTLV-I 抗体陽性の患者の外科的処置については一般的な注意事項に加えてHTLV-I に対する特別な対策は不用である。

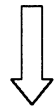
4. まとめ

以上よりHTLV-I の院内感染が発生する可能性は少なく、手術、針刺事故による感染の可能性もきわめて低いといえる。したがってHTLV-I に対してはB型肝炎ウイルスやHIVとは異なりHTLV-I のための特別対策は不用と考えられる。しかし血液を扱う際の基本的な注意事項を怠ってはならない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:保健指導班として HTLV- 抗体陽性妊婦の分娩、産褥時の管理、院内感染防止対策のためのガイドラインを作製することが目的の一つであった。HTLV- に関しては特別の対策は不用であるが血液を扱う際の基本的注意事項を怠らないことが重要である。